

Title	ヨーロッパにおける漢字の教育と学習 : 自立学習を支援する工夫
Author(s)	川口, さち子
Citation	聖学院大学論叢, 22(2) : 121-137
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/refs/modules/xoonips/detail.php?item_id=1930
Rights	

聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

〈原著論文〉

ヨーロッパにおける漢字の教育と学習 ——自律学習を支援する工夫——

川 口 さち子

Teaching and Learning Kanji in Europe:
Some Efforts to Develop Learner's Autonomy

Sachiko KAWAGUCHI

This paper discusses how a Japanese language program can help a learner of the language become autonomous with special reference to learning *kanji*. The author conducted a survey in 38 institutions of higher education, mainly in France and Germany, and visited some programs and professors or lecturers for follow-up interviews. The survey reveals that many Japanese programs in European countries require their students to master from 1,000 to 1,500 *kanji* by the end of the second academic year, while they give only one class hour for *kanji* in the first year and none in the second. In order to develop a learner's autonomy, some programs offer special support systems which enable their students to plan and evaluate their own learning processes by themselves and to master many *kanji* in a relatively short period of time. The author highlights a few successful cases and analyzes what makes them so. She also introduces some web sites or free tools for autonomous *kanji* learning and ways of making good use of them in a few European institutions.

Key words; 漢字教育・漢字学習・非漢字圏学習者・自律学習・学習支援

Key words; kanji teaching, kanji learning, non-kanji learners, learner's autonomy, learning support devices

はじめに

本学では、非漢字圏からの留学生がこの2、3年増え始めている。このため、非漢字圏の学習者に対する日本語教育の工夫、特に漢字教育についての工夫が必要となってきた。

そこで、筆者はヨーロッパの大学で行われている漢字教育の実際はどうなっているのか知りたいと思い、フランスを中心に本年4月～6月にかけてアンケート調査を行った。その回答例を見ると、フランスの大学で日本語を専攻する学科の場合、日本語を学習する時間数は週10時間前後で、漢字教育にあてられる時間は1年目で週1回程度である。2年目は特に漢字教育に時間を割いていないところが多い。しかし、コース終了時の習得漢字（少なくとも「読み漢字」として）の目標数は高く、1000字～1500字程度である。

では、漢字教育にあてる時間数が少ない中で、各大学の日本語プログラムは、学生に対してどのような指導をしているのか。この点について、実際の授業はどのように工夫されているのか、自主製作の教科書はあるのか、あるとすればどのように構成されているのか、学習支援体制はあるのかなどの面から、いくつかの具体的事例を紹介し、分析・評価したい。その際、特に、自律学習（学習者オートノミー）を支援する工夫はされているのかどうかをさぐっていききたい。というのは、文法と異なり、漢字のように学ぶべき項目が多く、個人的に学習すべきものややりたいと思うものに偏りが生じる語彙習得との関係で、理解でき、使用できるようにならないものは、そのすべてを丁寧に教室内で教えることはできないからである。すなわち、どうしても、学習者個々が自分で自分の学習を計画し、管理し、継続させていかなければ、漢字学習は学習者個々の目標に達しないのである。つまり、漢字を教えるということは、漢字をどう学び続けていくかに対して、的確な助言や有効な示唆を与えるものでなければならない。この観点を、本論の中心におきたいと考える。

1. 調査について

1-1 実施先

2009年4月から6月にかけて、主に「フランス日本語教師会」の会員を対象に、また、そのほか「ヨーロッパ日本語教師会」の会員も対象として、漢字教育についてのアンケート調査を行った。アンケートの内容は、本論末に揚げておく。そのほかにフランス国内の幾人かの日本語教師にはフォローアップ・インタビューを行い、また、ドイツのボン大学では、相当数の漢語理解を必要とする読解授業の見学を行った。

1-2 回収数

アンケートの回収数は38で、その内訳は、フランス22、ドイツ10、イタリア2、スペイン1、イギリス・スウェーデン・ベルギー各1であった。

また、回答した日本語教師は、高等教育機関に勤務するものが30名、初・中等教育機関に勤めているものが3名、民間語学学校に勤めているものが3名、その他が2名であった。

(高等教育機関と民間語学学校など、複数に勤めている場合は、高等教育機関としてカウントした。)

1-3 アンケートの内容

アンケート用紙については、本論末の資料を参照されたい。

本稿では、主にこのアンケートの質問項目のうちで、「漢字教育の工夫」と「学習支援体制」について取り上げて述べることにする。

2. フランスの大学の日本語教育事情

フランスの高等教育機関は2種類あり、一つがUniversité (大学)で、もう一つが, Grandes Ecoles (グランゼコール: 高等専門学校)と呼ばれているものである。Université (大学)は、バカロレア (大学入学資格)があればだれでも入れるが, Grandes Ecoles (グランゼコール)には入試があり、政・財・官界の主要人物に卒業生が多いため、エリート校と考えられている。大学のシステムも、日本と違って、3年で学士を終え、4年目で修士課程 (master) になり、その1年目が授業、2年目が研修となっている。博士課程 (doctorat) は3年間で取ることになっている。

日本語を学ぶ学習者の学習動機には、アニメや漫画が多いと言われ、それが日本語学習者の層を厚くしているのだが、実際は、学士まで終わられる学習者は非常に少ない。

例えば、ボルドー第3大学の場合、今年の1年生は日本語の登録者数が225名であるが、2年生では100名ちょっと、その半分にも満たず、3年生では40名、Masterではわずか20名ということである。また、リール第3大学の場合、1年生119名、2年生50名、3年生37名で、学士号取得まで至った者は1年生登録時の4.9%ということである。

3. ヨーロッパにおける漢字教育

今回調査対象となったヨーロッパ諸国の高等教育機関における漢字教育の授業時間数と教材についての調査結果を報告する。

まず、漢字習得目標だが、これがどの機関も非常に目標値が高い。INALCO (国立東洋言語文化大学)は、1年400字・2年905字・3年1500字、すべて読み・書きともできなければならない。パリ第7大学は、3年で2級合格目標、すなわち読み・書きとも1000字程度を目指している。リール第3大学、英国のマンチェスター大学では、3年間で常用漢字1945文字のすべてをカバーし、ドイツのベルリン自由大学では、なんと週2時間1学期間15週で、常用漢字を「読み漢字」(意味・形態認識ができるもの)としてすべて習得させてしまう (これについては、後述) など、どこも高い

学習目標を設定している。世界中で広く使われている日本語教科書の『みんなの日本語』の初級終了時の漢字習得数が500字程度であるから、これらの大学の学習目標がいかに高いかが了解される。

一方、漢字教育にあてる時間数は、どの機関もけっして多くなく、通常、週1回の1時間半～2時間程度の授業のみである。INALCOでは、日本語授業の全時間数が1、2年で週12.5時間の26週間、3年で週8時間の26週間、修士1年で週6時間の26週間であるが、そのうち漢字教育にあてられる授業時間数は、1年で週1.5時間の26週間、2年で週1.5時間の13週間に自習形式の13週間、3年では自習形式のみで26週となっている。

ボルドー第3大学では、日本語授業の全時間数が1年で「オラル（口頭表現）」「筆記（文法・作文・漢字）」各5時間の週10時間（年間26週間なのは、フランスの全大学で同じ）、2年で「オラル」5時間・「筆記」4時間の週9時間、3年で「オラル」4時間・「筆記」5時間の週9時間・修士1年で「オラル」2時間・「筆記」4時間の週6時間なのだが、そのうち漢字教育にあてられる授業時間数は「筆記」の中の1時間ないし1.5時間程度であり、この時間に10文字以上、17～18文字までを学習する。2学期が終わって足りない分は、夏休みの自習にゆだねられている。

また、大学の日本語専門コースでは、自前の教科書を作成しているところもある。INALCOでは『ひらけ日本語』に準拠した独自作成教科書、パリ第7大学（ディドロ大学）・ボルドー第3大学では『みんなの日本語』に準拠した独自の教科書を作成して、使用している。

一方、グランゼコールでは、機関によって異なるものの、2年間の選択必修科目（第2外国語）として、年間50～80時間程度の日本語教育が行われている。漢字教育は、この授業の中に盛り込まれているが、学習目標の漢字は、担当講師によって設定が異なるのが普通である。理工系グランゼコールのEcole Polytechnique・電子工学のSUPERLEC・経済統計学のENSAE、3機関で教えている日本人講師によると、どの機関でも『トータル・ジャパニーズ』の読み書き用付属教材、“Reading and Writing”を使用し、「読み」の目標は100字程度、「書き」は強要しない。Ecole Polytechniqueの別の日本語プログラムと、同じく理工系のENSTAのプログラムを教えている別の日本人講師は、上掲の教材を使い、その第25課（ここまでで、226字）くらいまでを導入するが、「読み」は読解のために意味が理解できるならば正確に読める必要はなく、「書き」も、日本語能力試験4級漢字（100字）程度を、手書きできなくても、コンピューター入力して同音異義語が識別できる程度に習得することを目標にしているとのことである。

以上をまとめると、やはり大学の日本語専門コースでは、漢字の学習目標文字数が軒並み高い。人文科学系専門ではないグランゼコールと比べるまでもなく、日本での初級教育と比較しても、週に15時間の大学の集中講座でさえ15週間で、初級文法終了程度、すなわち通常なら日本語能力試験で3級の500字程度が一般的であるから、その目標設定の高さは特筆すべきである。来日するヨーロッパの交換留学生が、文法能力では初級程度だが、漢字はよく知っているということが多いのはこのためだと思われる。このように、学習目標が高いのは、INALCOのように3年生くらいから文

学テキストや古文などを読むなど、専門的研究などにも漢字知識が必要なためである。

4. 自律学習を支援する漢字教育・授業の工夫

前節までに見たように、ヨーロッパの高等教育機関、特に日本研究の専門教育を行う機関では、授業であてられている漢字教育の時間数は非常に限られているのに、多量の漢字を学習目標に設定している。では、各プログラムは、この目標をクリアするためにどのような指導体制を取っているのであろうか。アンケートの記述から、具体的な授業の詳細が分かる機関について検討していく。

4-1 漢字教育の実際

まず、パリ第7大学であるが、自主漢字教材(前述)を使い、1年で400字以上、2年で500字と、2年間で計900字以上学習する。教材を見ると、かなり抽象的な語彙が足されている。漢字の筆順・音読み・訓読み・画数・部首・漢字の意味が書かれており、「読む練習」と「書く練習」がついている。

次に、ボルドー第3大学の場合であるが、自主漢字教材(前述)25課(420字程度)の学習は、1年で14課、残りの学習は夏休みの宿題となる。夏休みの宿題は自習用のものが渡される。通常の授業では、読み(カタカナ表記で音読み、ひらがな表記で訓読み)・筆順・漢字の意味・語源(どうしてこの漢字になったのか)が教えられ、一つの漢字につき、例文を2、3作っている。漢語は、習っていない漢字が含まれていても、そこには読みがなをつけて出すが、その課で習うものは、読みをつけない。1回に10以上、17～18文字ぐらいの導入で例文を読むが、2学期目になると例文は当てて読ませ、意味も言わせる。分からない単語は教える。このようにして、1年で420字の読み書きを覚えることを要求している。2年生になると、漢字クラスは設けず、自習になり、テストをやって学習状況を確認していく。テストには、2年生担当の漢字テストのほか、毎週1年生で習った漢字の復習テストもしている。

このように、かなりハードな内容なので、学生たちは最初の1週間で脱落していくとのことである。大学は、知識を身につける場所という考え方であるため、自律学習ができない学生は切り捨てるという方針だが、自律学習を促すためには、「3年生の学生を呼んで、どのように勉強したか話させる」「漢字カードを作らせる」「毎日勉強して漢字を使っていくことを最初から分からせる」というような支援体制を取っている。これは、自律学習を身につけるために支援していると言うより、自習のためのアドバイスをしているという程度のサポートであろう。

4-2 漢字の教え方の工夫：

4-2-1 ボルドー第3大学

ボルドー第3大学のような厳しいプログラムのある大学では、学生が嫌にならないように漢字や漢語指導の方法を工夫している。例えば、「大好物」という語彙の場合には、次のようなやりとりを学生としている。

—あなたの大好物は何ですか。—私の大好物は納豆です。

—納豆は、知っていますか。……一度食べてみるといいですよ。

また、「旅館・旅行」では、「日本のホテル、旅館には、温泉がある」と日本事情の説明になるような例文を用意し、「食べ物」の話題として日本料理の店について話すなど、学習する語彙に関連するテーマについて話し、興味をひくようにしている。漢字の成り立ちや単語の語源を説明するもの、興味を持たせる方法の一つである。このような例を参考にして、「楽しく覚え、好きになるためにはどうしたらいいか」を考えさせている。

4-2-2 リール第3大学

リール第3大学では、授業の進行を次のように行っている。

- ・漢字全体像を見せる（黒板かスクリーン）
- ・構成要素の分け方を（途中からは、漢字から予想できる意味も）学生に聞き、確認
- ・クラスターを作る（「色」・「感情」・「自然」などの「意味クラスター」、部首などの「形クラスター」、形容詞・動詞・名詞などの「品詞クラスター」）（参考：“*Basic Kanji Book*”）
- ・漢字の造語力を利用して、意味を知っている語彙を増やす
- ・黒板を利用して、ランダムフラッシュを行う
- ・それぞれの漢字の書き方に戻る。「ティクティク、ピー」といった擬態語を使って、点画を覚える作業をさせる
- ・五感を働かせる（見る・聞く・左手の平に書く・意味に動作をつけるなど）
- ・最後にもう一度、黒板を使ったランダムフラッシュを行う
- ・物語などに結び付けて、イメージを作ったりして漢字を覚える（例：「興」→「フランスのヴェルサイユ宮殿の庭みたいな形をしている」など）
- ・その日に扱った漢字語彙を使って物語を作る

このような授業を行うほかの指導上の工夫として、次のようなことを意識している。

1. とてもよく使う基礎漢字、特に日常生活中に配置しやすい漢字・イメージの作りやすい漢字（数字や曜日、山、川……など）をまず扱う
 - ・この範囲内での選定基準は、日本語能力試験範囲の漢字4級→3級→2級と進むようにする
 - ・いつも、まとめて、覚え方について話す時間を作る
2. 造語力の高い漢字をまとめ、漢字の造語力を利用して、意味を知っている漢字を増やす

- ・フランス語・英語・日本語・中国語・ドイツ語……
- ・日本人・中国人・韓国人・フランス人・外国人……
- ・入口・出口・非常口……
- ・電気・電車・電話……
- ・学生・学校・小学校・中学校・大学・学問・科学……
- ・自動車・電車・馬車・乗車・下車……
- ・飛行機・洗濯機・掃除機・自動販売機……

3. 実際に使う機会がある漢字を扱う。『みんなの日本語』との連携を考える。←多くの学生にとって、最大の日本語使用機会はクラス内である

- ・新しい漢字・漢字語彙の提示は推測力・メタ認知力を重視しつつ行う
- ・既習漢字と組み合わせて、漢字語彙を作れるようならどんどん作る
- ・手帳に書ける漢字など、生活に組み込める漢字をどんどん提示し、生活に組み込んでいくよう指示する

4-2-3 Ecole Polytechnique

Ecole Polytechnique のようなグランゼコールでは、日本語を学習する時間がもともと少ないうえに、漢字を学習する時間も少ない。そこで、「今までに習った漢字を使って作文しよう」など、総合的に使える時間をときどき取るようにしている。また、授業外でも見たり、使ったりする機会を増やすようにしている。例えば、教師がブログを開き、そこではなるべく知っている漢字にはふりがなを加えないようにしている。自分の力で（分からなければ辞書を使うなりして）努力してもらいたいためであるという。また、学習者にもブログに参加してもらい、ブログを書かせるようにしている。例えば、「私の好きなところ」という題で、写真を加えて自分が住んでいるパリの街について説明したり、「ホームステイの家族のみなさんへ」という題で作文を書いたりしている。ブログは、他の学生も情報を共有できるので、自分で書かなくても読む楽しみもある。読めない漢字があれば自分でも調べるであろう。（このブログについては、<http://xdebutant0809.blogspot.com/> からアクセス可能）

4-2-4 ボン大学

2009年6月に、ドイツのボン大学の読解授業を見学させてもらった。この大学では各クラスで、できるだけ協働学習（池田・館岡 2007）を取り入れている。見学は、中級レベルの『ニューアプローチ』という教科書を使っている3年生のクラス（20名くらい）について行ったが、このクラスでは、その課の練習問題をやる前に、学生を5人ぐらいのグループに分けておき、各グループ、先生役を決めておく。先生に当たったものは、事前に未習の単語や表現を調べておき、授業でグループのみんなに教える。見ていると、他の学生もふりがなしの問題を見ながら解いている。分からない字がある場合は、辞書を引く係がいて、辞書をひいてくれる。こうして、みんなで問題を解くのだが、

全体的にかなりのスピードで解答していくのには驚かされた。それでも、遅いグループがあると、先にできたグループが合流し、教えるようになっている。

この大学では、このように協働作業が定着しており、教師が教えるよりも、自分たちでやりたがるそうである。漢字の練習問題なども上級生が作ったものを下級生が解くというシステムになっているそうである。すなわち、協働学習の結果自律的学習がかなり育っているといえるだろう。ボン大学での授業方法についての詳細は、渋谷・井上（2009）を参照されたい。

4-2-5 ベルリン自由大学

ドイツのベルリン自由大学では、同大学教授の山田ボヒネック頼子が開発した“E-Learning KanjiKreativ”（山田2007）というソフト教材を用い、ユニークな漢字教育を行っている。このE-Learning プログラムは、非漢字圏の日本語学習者が、読み・書き・意味のすべてを同時に行う従来の漢字学習でつまづくことが多かったというところから、「漢字を見れば、意味が分かる」という漢字圏の学習者のような「漢字脳」を作るべきだという考えから考案されたもので、偏旁も含めた漢字構成要素である「原子」の意味をまず覚え、その組み合わせで漢字の意味を、さらにその漢字の組み合わせで漢語の意味を類推させて、短期間に常用漢字をマスターさせる漢字学習プログラムである。

このプログラムは、基本的に以下の段階を踏んで行われる。

1. プログラム導入（講座開始一日目：45分）
2. 280原子を、自宅学習+授業3回により、各100原子ずつ、ドイツ語で意味を書いて覚える。
読みを覚える必要はない
3. 1945字の常用漢字を、自宅学習+授業全21回により、各100問ずつ、ドイツ語の意味を書いて覚える。ここでも、読みの学習は省略する
4. 約28時間目（14週目）後から10週間、筆ペン・柵目ノート使用で、「原子」の書き練習をする。教師はフリップチャートに「1原子0.5分間」の時間配分で書き、学生もそれをどんどん写字していく。読みの学習は、次の段階から行う
5. 約56時間目（28週目）後から10週間、「原子」書きと同様に、「1漢字1分間」で、4級漢字を「漢語彙」として「書き・読み」を指導し、練習させる
6. 漢文字学習と平行して、「漢字文法：SeIn Tech（構成要素としての各原子の分析・統合 Segmentation-Integration テクニック）」を指導していく。漢文字文脈化のテキスト（初級1から正書法教育）には以下のものを採択していく
 - ① リラックス・テキスト
 - ② 「新聞見出しクイズ」
 - ③ 日本文学 池澤夏樹（1992）『きみが住む星』（このテキストは、一定の意味認識作業が終わった後で、暗誦テキストとして「プロソディー教育・正書法教育」に利用する。その際の

音声資料は、オーディオ・データとしてグループ・サイトから提供されている)

④ 日本のうた (カラオケ)

4-2-6 トリア大学

ドイツのトリア大学では、学生が、漢字を使用する文章作成を高い動機づけをもって行うことができるように、以下のことを実施している。

- ・作文を課題として与えており、提出された作文は添削して返却する
- ・日本人留学生との協働学習の場 (例: プロジェクト・ワーク) を提供する
- ・日本人 (例: 提携校の学生) とのメール交換の機会を提供する
- ・日本人留学生とお互いの言語を教えあう「タンデム学習」の機会を提供する

漢字・漢語学習の動機づけとしては、上述の「協働学習」や「メール交換」の効果はたいへん高いようで、学生の表現作品にはその効果がうかがえる。例えば、日本人の学生向けに自己紹介のパワー・ポイントを作った初級前期の学生は、「好きなもの・きれいなもの」の欄の「きれいなもの」として煮込んだニンジンのことを書きたかったため、「煮る」という動詞を教師から聞き出し、それをきちんと漢字でパワー・ポイントの画面に書き込んでいる。このように、表現の個人化が保証される活動は、漢語を含む語彙のように、学習者によって必要なものに多様性があるものの学習には非常に効果的である。

5. サイトの利用

学生の自律学習を支援するものとして、サイトの利用がある。大学がこれらのサイトの使用を奨励すれば、それは自律学習を支援することにつながる。

ボルドー第3大学では、特に「CLUB (専科で専門的に勉強していない選択科目のクラスの学生)」のために www.nihongo.fr のサイトを作り、宿題を出し、授業で習った範囲をもう一度このサイトを見させ、復習することを課題としている。このサイトは、フリーのサイトでどこからでもアクセスできるようになっている。各課には見出しがついており、漢字・文法・読みものが勉強できるようになっている。また、自動生成ができるので、自分で解答を入れ正しいかどうか確認ができる。これによって、日本語能力試験2級レベルまで漢字・文法などの復習・自習が目指せるとのことである。

また、<http://e-nihongokyoushi.net/> では、教師の側で問題が簡単に作れるようなツールを作っている。このサイトは、学生にも授業で全面的に使用させている。学生の現在の進行状況 (授業・日本語能力試験・『みんなの日本語』 etc) に従って、ふりがなが自動的にふられるので自習に最適のためである。任意のテキストにふりがなをつけることもできる。このサイトの詳細は、蟻末 (2009) を参照されたい。

リール第3大学では、すでに広く利用者のいる『リーディング・チュウ太』や『ひらがなめがね』に加え、以下のサイトをクラスのホームページ上およびコンピューター室でのチュータリング時間に紹介している。

- ・『かんたんご』 (<http://www.kantango.com/>) : 単語リストができる
- ・名古屋大学『Japanese Kanji Online』
(<http://opal.ecis.nagoya-u.ac.jp/~webcmjk/index.html>)
- ・『漢字フラッシュカード』 (interface 仏語バージョン)
(<http://www.asahi-net.or.jp/%7Eik2r-myr/kanji/kanji1f.htm>)
- ・シカゴ大学『Kanji Alive』
(<http://kanjalive.lib.uchicago.edu/main.php?page=overview&lang=en>)
- ・筆順 stroke order がわかるもの
(<http://gahoh.marinebat.com/modules.php?name=Content&pa=showpage&pid=3>)
- ・インストールして使う辞書。オンラインのものより充実している
(<http://www.physics.ucla.edu/~grosenth/jwpc.html>)

さらにリール第3大学では、『リーディング・チュウ太』『ひらがなめがね』などの漢字のサイトを使わせている。例えば『リーディング・チュウ太』で、自分が書いた文章をサイトの「道具箱」に入れ、どの程度の漢字を使っているかをチェックさせている。また、『ひらがなめがね』とも併用させ、新聞記事を読むときの読みがなや意味の確認に使わせている。

ブルターニュのグランゼコールでは、『A door to the world of 漢字』『わくわく漢字ランド』『Charles Kelly's Online Japanese Language Study Materials』を利用して、クイズやゲームをさせることで、学生の興味をかきたてている。

6. 自律学習（学習者オートノミー）と漢字教育

以上見てきたように、ヨーロッパの高等教育機関では、日本語学習上の困難点の一つである漢字学習について、学生の興味を引き出すような教え方を考え、動機づけが高まるような教室活動を考案し、自由に使える学習用サイトを紹介するなど、さまざまな工夫と努力を行っている。では、このような教育的配慮のうちの、どのようなものが学習者を「自律的学習者」に育てるであろうか。

「自律学習」あるいは「学習者オートノミー」の定義で最も有名なものは、“the ability to take charge of one's own learning” 「自分自身の学習を管理する能力」であり、青木（2009：資料1ページ）は、これについて次のような問題提起をしている。

問題1：自分自身の学習を管理するとは具体的に何をすることか？

問題2：こうした能力を持つことは、責任なのか権利なのか？

青木の見解は、学習者オートノミーは、「学習の目的、目標、内容、順序、リソースとその利用法、ペース、場所、評価方法」を自分自身で決める能力であり、人にはそうした能力を使う権利がある（同資料1ページ）というものである。

また、宮崎（2009）は、次のように言っている。

メタ認知ストラテジーとは、学習者が自分の認知作用をコントロールすること、つまり自分の学習を位置づけ、計画し、評価する、といった機能を使って言語学習の過程を調整することである。（中略）直接ストラテジーは認知的なもので、それらを統制・管理するメタ認知ストラテジーこそがより重要である。（中略）学習者が主体的なことばの学びを継続する、つまり自律学習するにはまずメタ認知ストラテジーの認識から始まると言っても過言ではない。（上掲書：17）

自律学習能力とは自身で学習の目標を決め、学習計画を立てて、自己評価をすることであると言える。（中略）学習者に自律学習能力を習得させることは、教師の存在を否定するのではなく、むしろ「教師の役割が変わる」という捉え方が適切ではないだろうか。（上掲書：18）

青木や宮崎の言うことが正しいのであれば、厳しいカリキュラムにも教師の助けなしで生き残れる「優れた学習者」のみしか残らないようなプログラムは、多くの学習者に漢字学習の困難さを克服させるものとしては、適切ではないだろう。であれば、教えるうえでの工夫をさまざまにはいるものの、教室から外に出たときに学習者が自ら管理してアクセスできるような支援体制を持っていない大学は、自律学習に結びつくような支援体制が乏しいと言えるだろう。これからの漢字教育は、学習者主体となるような教室運営をし、かつ、少ない授業時間を補えるよう、サイトやソフトを活用させ、また、メール交換やブログなどの場で実際に漢字を使わせてみることで学習動機を上げていく手助けになると思われる。そのような視点からすると、ボン大学の協働学習促進、トリア大学の個人化表現活動の提供、ベルリン自由大学の教材開発、リール第3大学やボルドー第3大学のウェブサイト利用の奨励などは、今後の漢字教育の進むべき方向の一端を示していると思われる。筆者としては、これらの先行実践例を参考にして、聖学院大学の日本語教育課程における漢字教育の新しい試みを模索したいと思うのである。

資料1 アンケート内容

「ヨーロッパ圏における漢字教育アンケート」

I. カリキュラム全般

1. あなたが教えている教育機関の名称を教えてください。
複数あれば、それぞれお書きください。
2. その機関では、日本語を教えているコースには、どんなコースがありますか。(例：選択科目、
専門科目、社会人教育など)
3. そのコースでは、それぞれ、週何時間〔時間×コマ数〕、年間何週の日本語の時間がありますか。
学年・学級別に教えてください。(複数の機関で教えていらっしゃる方は、その中で代表的なもの、
あるいは書きやすいものでけっこうです)
4. 日本語のコースには、どんな科目がありますか。(例：漢字・文法・会話・総合・日本語概説な
ど)
5. 日本語科目を担当している日本語非母語話者教師、日本語母語話者の教師の人数は何名ですか。
非母語話者教師____名 母語話者教師____名
6. 日本語母語話者教師はどんな科目を担当していますか。

II. 漢字教育

1. 漢字教育は、行っていますか。
1) 行っている→問2以降 2) 行っていない→質問終了
- ① 漢字をどのようなものとして教えていますか。
以下の該当するところにチェックを入れて、具体的に記述してください。
- 文字体系として(例：すべての常用漢字、教育漢字、日本語能力試験(以下 JLPT と略す) 4
級範囲の漢字のみなど)(語彙としてではなく、文字として)
- _____
- _____
- 語彙表記の要素として(例：教科書中の一部の単語、JLPT の 3 級の語彙のみ、教科書中の漢
語語彙のみ、日常生活によく使われる語彙のみなど)
- _____
- _____

- 文化紹介として（例：日本語には、このような文字があるという紹介程度）

- その他（具体的にお書きください）

- ② どのくらい（週に何時間くらい）行っていますか。学年・学級ごとに教えてください。
また、1回に何字くらい扱っていますか。

- ③ 漢字教育のために特定の教科書を使っていますか。

使っている→問5以降 使っていない→問6以降

- ④ どんな教科書を使っていますか。

- ⑤ コース終了までに何字くらいの漢字の習得を目標にしていますか。

読み漢字：

書き漢字：

- ⑥ 漢字は、どのような順番のもとに提出して教えていますか。

以下のものにあてはまればにチェックを入れてください。下記のもの複合だったり、当てはまらなかったりする場合には、記述してください。

- 象形文字・形声文字のように成り立ち別に
 形容詞に使われる漢字・動詞に使われる漢字など語彙グループ別に
 使用頻度順に
 メインテキストに出てくる語彙に準拠して
 漢字テキストの提出のとおり
 その他（具体的にお書きください）

- ⑦ 漢字授業の流れはどうなっていますか。

- ⑧ 漢字を教える（学ばせる）ために工夫をしていることはありますか。

ある→問10以降 ない→質問終了

⑨ どのような工夫をしていますか。

1) 学ぶべき漢字の選定 (親近性の高いものをまとめてなど)

→選定の方法:

2) 試験のやり方

3) 学習者の既得概念の活用 (漢字マップの作成, 既習漢字と新出漢字で語彙を作るなど)

→活用方法:

4) 漢字ネットワークの形成・拡大 (例: 日本人とのメール交換, 日記・ブログ・小作文などの課題など),

→その方法:

5) 自律学習への支援

行っている→問14以降 行っていない

6) その他 (具体的にお書きください)

2. 漢字自律学習のためにどんなサポート (支援) を行っていますか。

1) 漢字学習のためのCDソフトを作っている (使っている)

→ソフトの内容:

2) 練習問題を作って, 宿題にしている。

→練習問題の内容:

3) 漢字のサイトを使わせている。

→サイト名 (例: 「リーディング・チュウ太」, 「ひらがなめがね」など)

→使わせ方:

4) その他 (具体的にお書きください)

以上

資料2 ヨーロッパで使われている漢字教科書・漢字教材リスト（アンケートから）

- A：自主作成教科書
- B：『Basic Kanji Book Vol. 1』1990, 加納千恵子他, 凡人社
- C：『Basic Kanji Book Vol. 2』1990, 加納千恵子他, 凡人社
- D：『げんき1』『げんき2』付属漢字教材『Kanji Look and Learn』2009, 坂野永理他, Japan Times
- E：『漢字マスター Vol. 3 3級漢字 300』1996, アークアカデミー教材作成委員会編, 専門教育出版
- F：『漢字マスター Vol. 3 2級漢字 1000』2000, 同上
- G：『漢字マスター Vol. 4 1級漢字 2000』2003, 同上
- H：『留学生のための漢字の教科書中級 700』2008, 国書刊行会
- I：『Key to Kanji: A visual guide to the Origin of 1100 characters』
- J：『Total Japanese 読み書きの本』1994, 早稲田大学, 凡人社発売
- K：『Intermediate Kanji Book vol 1.』1993 加納千恵子他, 凡人社
- L：『Intermediate Kanji Book vol 2』2001 加納千恵子他, 凡人社
- M：『漢字の道 1000 漢字習得テキスト』1990 豊田豊子, 凡人社
- N：『Japanisch fuer Schuler』（生徒のための日本語＝筆者訳）＝ドイツの高校生用教科書
- O：『Praktisches Lehrbuch Japanisch』（Hadamitzky）（実用的日本語教科書＝筆者訳）
- P：『漢字とかな』（ドイツ語版：Enderle GmbH, 1979
Langenscheidt KG, 1980
英語版：Charles E. Tuttle Company, 1981
© 1984 Wolfgang Hadamitzky
フランス語版：Librairie J. MAISONNEUVE, 1987）
- Q：『みんなの日本語1』『みんなの日本語2』付属『漢字練習帳』2004, 東京国際日本語学院編著, スリーエーネットワーク
- R：E-Learning KanjiKreativ
- S：<http://www.nihongo.fr/>
- T：[『ひらけ日本語』2001, 拓殖大学留学生別科, 日本語教育研究所編, 凡人社発売] で扱う漢字 + 自主追加
- U：『A Course in Modern Japanese』2002, 名古屋大学日本語教育研究グループ編, 名古屋大学出版会 付属漢字練習 (Kanji Practice)

ヨーロッパで使われている学習支援サイト：

- ・「リーディング・チュウ太」⇒文章にふりがなをつけたいとき，能力試験の級確認
- ・「ひらがなめがね」⇒新聞記事などを読むときに使う
- ・かんたんご (<http://www.kantango.com/>) ⇒単語が調べられる。単語リストができる
- ・名古屋大学 Japanese Kanji Online
(<http://opal.ecis.nagoya-u.ac.jp/~webcmjk/index.html>)
(<http://www.asahi-net.or.jp/%7Eik2r-myr/kanji/kanji11.htm>)
⇒漢字フラッシュカード (interface 仏語バージョン)
- ・シカゴ大学 Kanji Alive
(<http://kanjialive.lib.uchicago.edu/main.php?page=overview&lang=en>)
⇒筆順 stroke order がわかる
- ・<http://gahoh.marinebat.com/modules.php?name=Content&pa=showpage&pid=3>
⇒インストールして使う辞書。オンラインのものより充実している
- ・<http://www.physics.ucla.edu/~grosenth/jwpce.html>
- ・「A door to the world of 漢字」⇒電気製品のボタンや駅など，生活の中でよく見る漢字の読み方と意味が勉強できる。
- ・「わくわく漢字ランド」⇒日本人の小学生向けのサイト
- ・「Charles Kelly's Online Japanese Language Study Materials」⇒無料のオンライン教材，日本のいろいろな看板の写真もある。
- ・<http://www.nihongo.fr/> ⇒『みんなの日本語』に準拠したフランス語の自習および練習サイト
- ・<http://e-nihongokyoushi.net/> ⇒教師の側で問題が簡単に作れるようなツール
- ・IT-Rikaichan ⇒オンライン読解ツール
- ・www.bibiko.de ⇒翻訳ツール
- ・www.wadoku.de ⇒翻訳ツール
- ・<http://www.sp.cis.iwate-u.ac.jp/icampus/u/> ⇒漢字のストロークが動画で分かる
- ・<http://www.sp.cis.iwate-u.ac.jp/icampus/u/upod.jsp> ⇒アニメで漢字学習ができる
- ・rikai jisho
- ・Reviewing the Kanji
- ・Rikai.com
- ・Kanji Wiki
- ・和独辞典
(<http://lingweb.eva.mpg.de/kanji/index.html?kanjihttp://lingweb.eva.mpg.de/kanji/index.html?kanji>) (筆順がついている)

・初級日本語 『げんき』 オンラインの漢字

参考文献

- Benson, Phil (2001) *Teaching and researching autonomy in language learning*, Harlow: Pearson Education
- Holec, H. (1981) *Autonomy and foreign language learning*. Oxford: Pergamon Press, .
- 青木直子 (2008) 「日本語を学ぶ人たちのオートノミーを守るために」『日本語教育』138号 日本語教育学会
- 青木直子 (2009) 「学習者オートノミー概論」フランス日本語教師会研修会講演資料
- 蟻末淳 (2009) 「日本語教育におけるコンピューターデータの扱い・WEB教材の作成を通して一遠隔教育の可能性一」『フランス日本語教育』No. 4 フランス日本語教師会
- 池田玲子・館岡洋子 (2007) 『ピア・ラーニング入門』ひつじ書房
- 桜美林大学日本語プログラム (2007) 「グループさくら」『自律を目指す言葉の学習』凡人社
- 河合靖 (1999) 「外国語自律学習研究の3要素—動機づけ, 学習スタイル, 学習ストラテジー」『言語文化部紀要』37 北海道大学
- 河合靖 (2000) 「外国語自律学習と学習者論」『言語文化部紀要』38 北海道大学
- 川森めぐみ・柴原智代 (1998) 「漢字の自律学習システム—その成果と課題—」『日本語国際センター紀要』第8号
- 加藤清方 (1992) 「日本語学習支援のためのメディアの統合と知的CAI」『日本語教育』(1992.11) 78号, 日本語教育学会
- 小山悟 (1996) 「自律学習促進の一助としての自己評価」『日本語教育』88号, 日本語教育学会
- 渋谷順子・井上玲子 (2009) 「教師・学習者立場逆転型タスクの試み—学習者を一社会的存在とみなすCEFR理論背景に基づいて」国際表現言語学会 2009.3 発表
- 館岡洋子 (2002) 「日本語でのアカデミック・スキルの養成と自律的学習」『東海大学紀要』22号, 東海大学留学生センター
- 宮崎里司 (2009) 「自律学習支援のためのタスクと学習ストラテジー」『タスクで伸ばす学習力』宮崎里司編著 pp. 12-27 凡人社
- 山田ボヒネック頼子 (2007) 「KK 2.0 (KanjiKreativ) Eラーニング: 1945 常用漢文字学習プログラム—体系的・増分式「識字力育成」が日本語教育に齎すインパクト—」『ヨーロッパ日本語教育』12号 ヨーロッパ日本語教師会 AJE 英国日本語教育学会 BAJJ